



夏のオープンキャンパスに 3000人以上が来場

本学を志望する受験生を対象に愛知淑徳大学をより理解してもらうための「オープンキャンパス」を年に3回、長久手キャンパスと星が丘キャンパスで開催しています。春(4月23日)は629人、夏(7月30日・7月31日)は3053人の来場者を迎えることができました。今年の夏のオープンキャンパスは、2日間を両キャンパスで同時開催するという初の試みとなりました。本学で希望している学科を、よりゆつくりと見学し、味わってもらうことを目標にしました。東海4県はもちろんのこと、北海道・東北・青森県・宮城県など北海道・東北地方から10人以上の、そして南は石垣島からの参加者2人を含む鹿児島県、沖縄県など九州・沖縄地方から15人近くの参加者がありました。全国から多くの参加者を迎えることができ、本学への関心の高さが伺えました。

模擬授業は大変盛況でした。全学科・専攻コースで1日、2つの授業を受講することができ、今後の志望決定に大いに役立ったとの感想が聞かれました。さらに、全

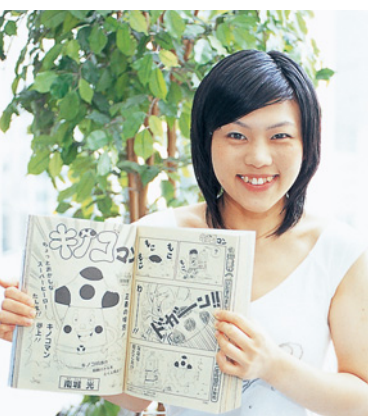


星が丘キャンパス



長久手キャンパス

表現文化専攻4年の 杉江りなさんの作品が 漫画雑誌に掲載



文化創造学部表現文化専攻4年の杉江りなさんの漫画作品「キノコマン」が、小学生向けの月刊ブレイブコミック プリン7月号(ポプラ社)に掲載されました。作品は怪人ウオーターマンに襲われた8歳のケンくんを、ちゃんと頼りない正義の味方キノコマンが救うというストーリー。南城光(なんじょうあきら)のペンネームは、仕事運のいい画数だとお母さんも保証してくれた名前だそうです。

「淑徳の表現文化専攻は実作が卒論の代わりになると聞いて入学しました。普通ならなかなか会えない鳥居先生のようなプロの漫画家に直接、作品の講評をしていただけるので、とてもためになっています」

現在はプロデビューと連載を目指して作品制作に打ち込んでいる杉江さん。今後描きたい作品のテーマを「基本的に笑えるけど、子供に夢や希望を与えられる作品」と話してくれました。

毎年夏の恒例行事となった第6回「愛知県私立中学校進学フェア」が、今年は7月30日(土)、31日(日)の2日間、本校を含む県内の私立中学校21校が参加して行われました。

2005 愛知県私立中学校 進学フェア開催

私学教育の自由さと内容の先進性に対する関心が高まる中、参加者は年々千人規模で増えつづけ、今年は土日の開催となったこともあって、全体の入場者は2日間で延べ5321人(昨年比129%)と大変な盛況となりました。猛暑の中、各校のブースには、入試や校風について熱心に相談する多くの保護者や児童の姿が見られ、会場の松坂屋南館8階ホールは、日中熱気に包まれました。

本校のブースは昨年に引き続き、背景の制服の衿をかたどったレイアウトに加えて、今春作成した新しいパンフレットのイメージコピーを大きく掲げ、来年度からの新



ハ アランさんが 日本語弁論大会で 外務大臣賞受賞



大学

去る6月18日鳥取県米子市で第46回「外国人による日本語弁論大会」が開かれ、本学3年生の韓国人留学生、ハ アランさんが見事、第一位に当たる外務大臣賞を獲得しました。米子本戦では全応募者143人のうち、4月25

日の厳しい予選審査を通過した12人です。それぞれ個性の光る、聴き応え十分のスピーチでしたが、中でもハさんの、聴衆の心に優しく語りかけるスピーチは抜きん出た日本語力とともに最優秀賞に相応しいものでした。ハさんのスピーチは日韓の間の



左より、小林学長、ハ アランさん

この大会に出たいと私のところに言ってきたのは去年の12月。何度も原稿を書き直し、最終原稿に落ち着いてから始めた練習は4ヶ月に及びましたが、その間、ハさんが見せた、絶対に出場するという強い意欲、練習の厳しさに耐えたすばらしい忍耐力には本当に感嘆することが多く、心に残る経験となりました。

(留学生別科 阿部美枝子)



中学校



オープンスクール開催

5月最後の土曜日の28日、1学期最大の行事である中学校のオープンスクールが開催されました。一〇〇周年を記念しての新校舎建築、定員増、完全中高一貫体制への期待と関心が寄せられているためか、全体会の会場では用意した二千脚近くの椅子が足りなくなるほどの盛況となり、多くの小学生と保護者で賑わいました。全体会が行なわれた大アリーナでは、学校紹介ビデオ「翼を広げて」および新校舎建築計画紹介のビデオを上映、学校長あいさつ、3分間スピーチ、パトント演技、沖縄研修レポートとエイサー披露等の例年好評のプログラムに加えて、今年はミュージックベルの演奏も加わり、盛りだくさんのプログラム

ラムで参加者の関心を集めました。その後、校内見学に移り、中学校舎3階および特別教室での各教科ミニ体験授業(百人一首、民族衣装体験、数学パズルなど)への参加、また校内各所で活発に活動している運動系、文科系のクラブ活動の見学にも多くの参加者がつめかけていました。また、美術、家庭科、短歌などの生徒作品の展示や中3沖縄研修で作成した紅型や漆喰シーサーなどの作品、中2高山調べ学習の成果を展示するコーナーもあり、日頃の本校の教育活動の一端を見ていただくよい機会となりました。今年も中3の生徒全員が登校し、会場係や案内係としてしっかりと役割を果たしてくれました。

都市環境デザイン コース主催で 原広司展

大学

7月24日〜8月7日にかけて、8号棟5階プレゼンテーションルームにおいて「原広司展 ティスクリー・シティ」が開催されました。JRR京都駅や札幌ドームの設計者として知られる原氏は、建築理論とその実践において長年建築界をりー

ドしてきた建築家です。この展覧会は、モンテビデオとコルドバに短期間建てられた実験住宅プロジェクトを中心に、原氏がここ数年取り組んでいる記号場やティスクリー・シティの概念を通して氏のこれまでの建築作品を概観する内容となっています。実験住宅が作られていく過程が、日本とウルグアイ、アルゼンチンを結んでやりとりした大量のファックスによって浮かび上がり、そこに関わった人々の生き生きとした表情をとらえたドキュメントも相まって、手作りのプロジェクトであることを感じさせられました。なかでも、原氏自らが細部まで綿密に書き込んだ実験住宅の図面(コピー)は、理論派のイメージが強い氏の

設計に対する熱意が伝わってくるかのように圧巻でした。また、都市環境デザインコースの学生たちが手がけた会場デザインも大変好評で、例年にも増して高く評価していただきました。建築を学びはじめた学生から建築をよく知るプロまで、幅広い人々がそれぞれ何かを得られた展覧会でした。(現代社会学部 清水裕二)



米沢唯さんが バレエコンクールで 銅メダルを受賞

大学



文化創造学部表現文化専攻1年の米沢唯さんが、7月に名古屋で開催された第5回世界バレエ&モダンダンスコンクールのクラシックバレエ部門女性の部で銅メダルを受賞しました。150人の部門参加者の中、予選で「ドン・キホーテ」、決勝で「白鳥の湖」(写真)を踊って勝ち進み、女性メダリストの中で最年少受賞者という快挙です。審査員に世紀の大プリママイヤ・ブリセツカや名を連ねるこのコンクールは、世界中からプロジニ

アが参加し、3年に1度開催。参加資格は15〜28歳のため、前回まで観客だった米沢さんは、「出場するのがあるがこれのコンクールでした。プロもいる中で賞をいただき、本当に嬉しいです」。3歳から塚本洋子バレエ団に所属し、「ここまで賞をいただいた者の義務だと思うから」と、現在も日に最低2時間の練習を欠かしません。「バレエは私にとってごく自然な表現手段。人が話したり書いたりする代わりに踊っています」。淑徳高校から表現文化専攻に進み、「いろんな知識を身に付けて踊りたい。授業は表現に役立っていると思っています」。今後は「外国のバレエ団で踊れるように、英語の勉強に力を入れたいですね」とのことでした。